

コメント

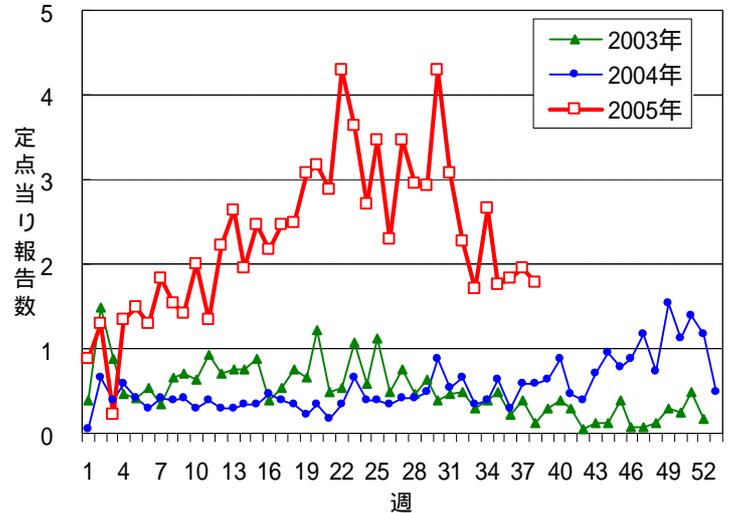
1. 流行性耳下腺炎

定点当り1.79人とほぼ横ばいとなっています。安芸区4.0人、中区、南区ともに3.0人となっています。

2. 流行性角結膜炎

定点当り3.38人とほぼ横ばいとなっています。安佐北区からの報告が21人と、依然として多くなっています。年齢階層別では、第36週、第37週と比べると成人の報告数が多くなっており、20歳以上が全体の74%を占めています。

流行性耳下腺炎



5類感染症報告状況 (定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均 過去 5年間 (注1)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均 過去 5年間 (注1)	発生記号
インフルエンザ (注2)	-	-	-		麻疹(注3)	-	-	0.04	
咽頭結膜熱	5	0.21	0.08		流行性耳下腺炎	43	1.79	0.63	⇒
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	15	0.63	0.46		RSウイルス 感染症	-	-	/	
感染性胃腸炎	74	3.08	2.28	⇩	急性出血性 結膜炎	-	-	0.03	
水痘	12	0.50	0.43		流行性角結膜炎	27	3.38	1.13	⇒
手足口病	1	0.04	0.84		細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	3	0.13	0.17		無菌性髄膜炎	-	-	0.34	
突発性発疹	16	0.67	1.01		マイコプラズマ 肺炎	-	-	0.11	
百日咳	2	0.08	0.02		クラミジア肺炎 (注4)	-	-	-	
風疹	-	-	-		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	15	0.63	0.44						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね 1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね 1.15～2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね 1.1～1.5の増減
横ばい	⇨		ほとんど増減なし

一時的な変動と考えられる場合は、前週との比較ではなく傾向を示しています。また報告数が少なく傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 37 (小児科定点含む)
小児科定点数 24
眼科定点数 8
性感染症定点数 9
基幹定点数 7

(注1) 過去5年間の同時期平均 (定点当り)
(注2) 高病原性鳥インフルエンザを除く
(注3) 成人麻疹を除く
(注4) オウム病を除く

1類～5類感染症報告状況 (全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	12	女性(10歳代)・O26

5類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

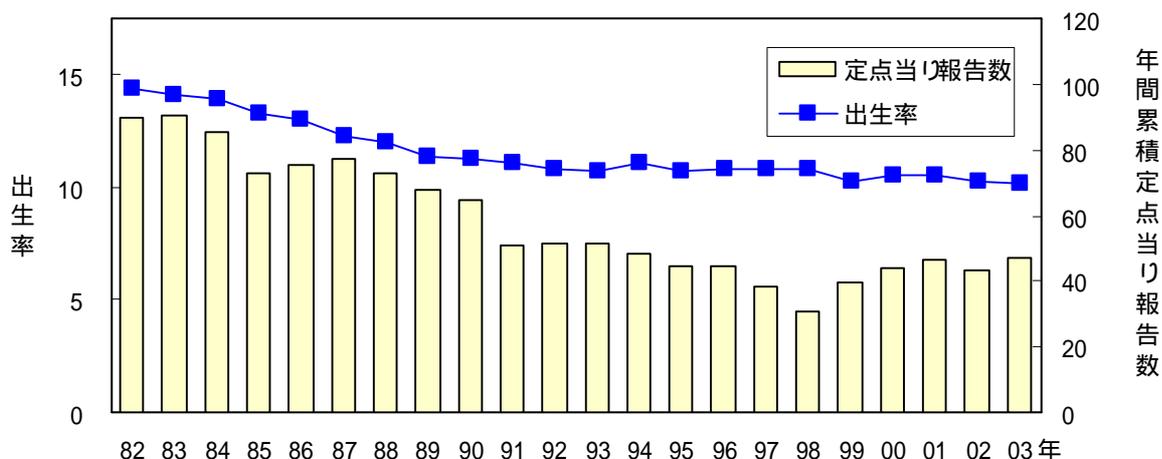
報告数	定点当り	インフルエンザ (注1)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (注2)	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (注3)	成人麻しん
広島市	第34週	-	14	8	85	13	14	6	29	-	1	32	-	64	-	-	13	-	1	-	-	-
	第35週	-	8	11	104	12	17	-	23	3	2	21	-	42	-	-	4	1	3	5	-	-
	第36週	-	11	15	100	11	10	2	18	1	-	17	-	44	1	1	31	-	2	2	-	-
	第37週	-	6	11	85	12	6	1	20	1	-	21	-	47	1	-	29	-	3	3	-	-
第38週	-	5	15	74	12	1	3	16	2	-	15	-	43	-	-	27	-	-	-	-	-	
広島市	第34週	-	0.58	0.33	3.54	0.54	0.58	0.25	1.21	-	0.04	1.33	-	2.67	-	-	1.63	-	0.14	-	-	-
	第35週	-	0.33	0.46	4.33	0.50	0.71	-	0.96	0.13	0.08	0.88	-	1.75	-	-	0.50	0.14	0.43	0.71	-	-
	第36週	-	0.46	0.63	4.17	0.46	0.42	0.08	0.75	0.04	-	0.71	-	1.83	0.04	0.13	3.88	-	0.29	0.29	-	-
	第37週	-	0.25	0.46	3.54	0.50	0.25	0.04	0.83	0.04	-	0.88	-	1.96	0.04	-	3.63	-	0.43	0.43	-	-
第38週	-	0.21	0.63	3.08	0.50	0.04	0.13	0.67	0.08	-	0.63	-	1.79	-	-	3.38	-	-	-	-	-	
全国	第36週	0.02	0.34	0.49	2.41	0.48	0.67	0.18	0.82	0.01	-	0.78	-	1.06	-	0.02	1.32	0.01	0.07	0.23	0.01	-
	第37週	0.04	0.35	0.52	2.38	0.42	0.72	0.17	0.82	0.01	0.01	0.74	-	1.12	-	0.01	1.31	0.01	0.05	0.24	0.02	-

(注1)高病原性鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く (注3)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
咽頭炎	6	女	2005/08/10	咽頭拭い液	アデノウイルス3型

【参考】出生率と突発性発しんの年間累積定点当り報告数 (広島市 1982年～2003年)



突発性発しんは、季節変動は少なく、年次による差もあまり認められないことから、感染症発生動向調査のデータ解析の際に、基準疾患として用いられることがあります。

年間累積定点当り報告数の推移をみると、1980年代前半に比べて2000年以降の報告数は半数近くまで減少しています。突発性発しんの患者は、0歳児と1歳児が98% (2000年～2004年、広島市)を占めていることから、この要因の一つに、出生率の低下に伴って新生児の数が減少していることが考えられます。

このことから他の疾患についても、長期的な傾向の解析を行う場合は、出生率の変化も考慮に入れることが必要であると考えられます。

出生率：その年9月末現在の住民基本台帳1,000人に対する年間の出生児数 (出典：広島市勢要覧)

本週報は、インターネットでもご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

なお、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

この情報の詳細に関するお問い合わせ先

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号

TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2005年第38週 (9月19日～9月25日)